

名古屋市

いきもの

すみかマップ。



●名古屋市のいきものの“すみか”はどこにあるんだろう？

●そこはどんな場所なんだろう？

●そこにはどんな生きものがいるのだろう？

こんなギモンにお答えします!!

このマップの使い方

このマップは「名古屋市には、こんな生きものの“すみか”があるよ」ということをみなさんに知ってもらい、生きものがすみよい名古屋市にするためには、どうしたらいいかを考えてほしいと思ってつくりました。

自分の家のまわりにはどんな“すみか”があるか確認してみよう

まず、みなさんの家のまわりには、どんな“すみか”があるのか、マップで見つけましょう。見つけた“すみか”の解説を読んだら、外へ出てその場所に行ってみましょう。そしてそこにどんな生きものがいるか探してみましょう。きっと、今まで気づかなかった身近な生きものに会えるでしょう。

少し足をのばして、いろいろな場所を見てまわろう

このマップを持って、市内のいろいろな場所に出かけてみましょう。そこで生きものを見つけてみてください。家のまわりと同じでしたか？ “すみか”がちがうと、すんでいる生きものもちがうことを発見してください。いろんな“すみか”を見比べると、いろんな発見があるでしょう。

いきものがすみやすい名古屋市にするために何ができるか考えよう

生きものの観察会や調査に参加してみましょう。生きもののことがよくわかって、すみよくするために、どうすればよいか気づくでしょう。学校にトンボが来るように池をつくったり、家にチョウが卵を産みつける木を植えたり、川を汚す洗剤をできるだけ使わないなど、ちょっとした工夫で生きものがすみよい街になります。

マップはこうしてつくりました

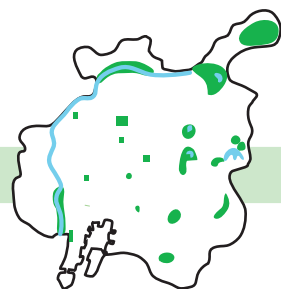
このマップは、生きものの“すみか”を分類したものです。

緑がある場所、緑のまとまり方、緑への人の関わり方などですむことができる生きものが変わります。名古屋市にある緑をこのような見かたで分けて、同じような“すみか”を同じ色で塗りました。



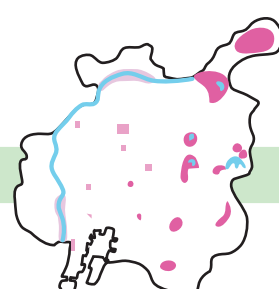
緑がある場所は？

緑をのせる土台の違いで生きものの“すみか”が変わる。



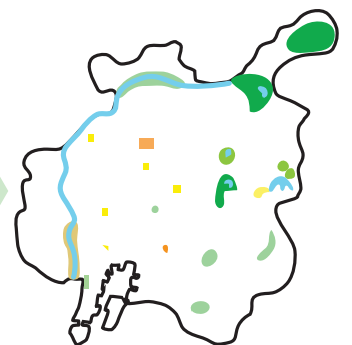
緑のまとまり方は？

緑が大きくてつながっていると、小さくてぽつんとあるよりもいろいろな生きものがすめる。



人の関わり方は？

街の中でも丘陵の方でも、それぞれの環境に合った生きものがすんでいる。



同じような“すみか”を同じ色で塗り分け



いきものの“すみか”から

みた名古屋市の特徴

大部分で都市化が進んだ名古屋市ですが、東部の丘陵地や、庄内川のヨシ原、藤前干潟、南陽地区の水田地帯など、生きものの“すみか”がまだまだ残っています。また、生きものの“すみか”を意識すれば、街の中でも意外と多くの生きものに会うことができます。



西部 (沖積平野)

大規模な水田や畑、河川敷の草地などが広がります。河口や干潟は平野に特有の環境です。

平面図は「生物多様性2050なごや戦略」より引用



中部 (台地)

市街化が最も進んだ地域ですが、点在する大きな公園や社寺などには緑が残されています。



東部 (丘陵地)

大規模な緑が多く残されていて、市域では生きものの種類が最も豊富な地域です。

沖積平野

地面は比較的新しく河川が運んできた砂や小石が多いです。

台地

地面は古くに河川が運んできた砂や小石が多いです。

丘陵地

地面は粘土の層と小石が多い層とが交互に重なっていて、しみ出し水が出やすいです。

さあ！身近な“すみか”をさがしてみよう！



名古屋の自慢できる “すみか”

東海丘陵の湿地

～東海丘陵要素の植物～

東海地方の丘陵地の低湿地とその周辺には、この地域に固有（世界でこの地域にのみ生育）、または日本での分布の中心がある植物が生育しています。これらの植物は15種あり、『東海丘陵要素』と呼ばれています。

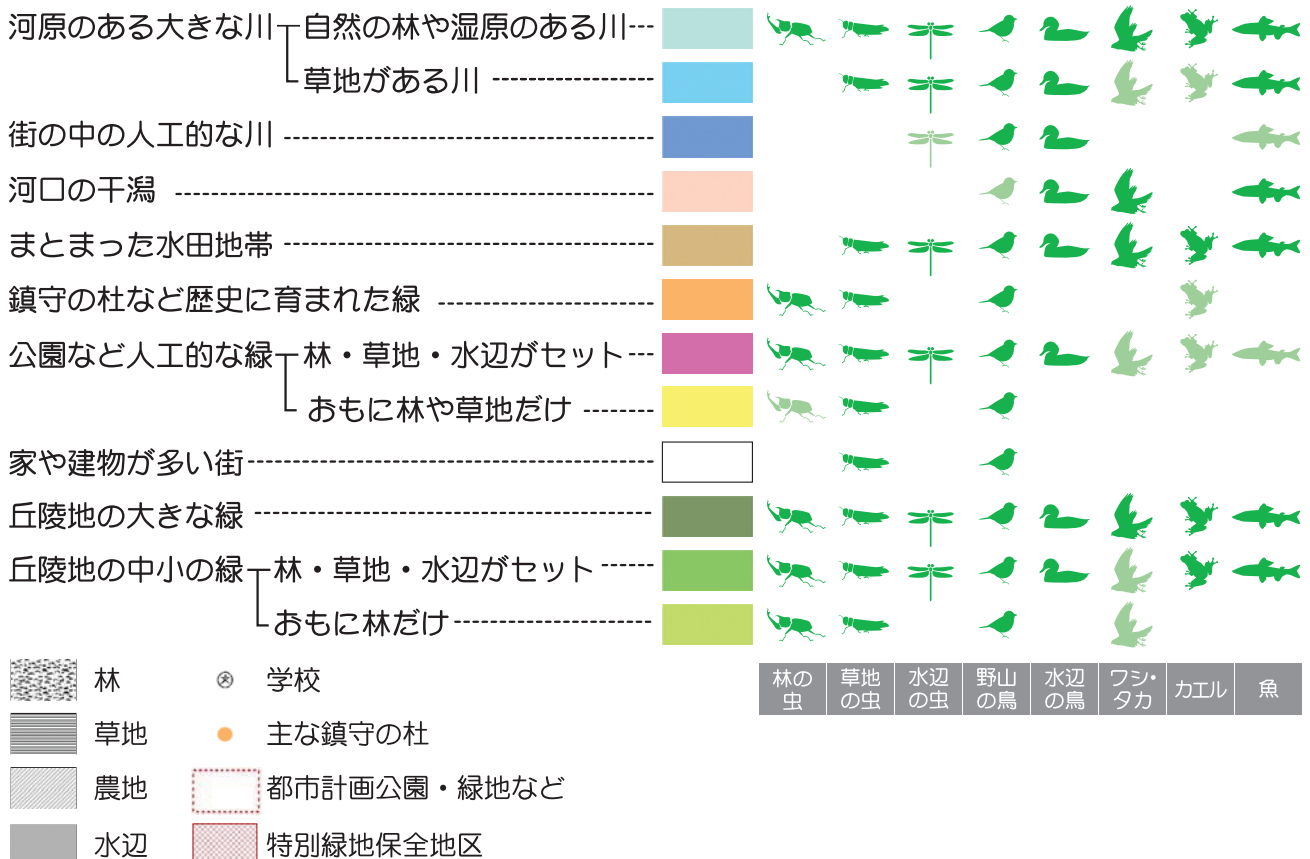
これらの植物は、数百万年に渡って「粘土層」と「砂れき層」が堆積したこの地域の地層と深い関わりがあります。この地層には次のような特徴があります。

- ・崩れやすい地盤
- ・栄養分の少ない砂れきの地面
- ・栄養分が少なく、低温の地下水（湧水）

このような環境は、他の植物が生育しにくい厳しい環境といえます。東海丘陵要素の植物はこの厳しい環境に適応することで、他の植物との競合が少なく生き残ってきた植物です。

シデコブシ マメナシ ヘビノボラズ フモトミズナラ
ヒトツバタゴ クロミノニシゴリ ナガボナツハゼ ハナノキ
ナガバノイシモチソウ トウカイコモウセンゴケ
ヒメミミカキグサ ミカワシオガマ ミカフバイケイソウ
シラタマホシクサ ウンヌケ

いきものの“すみか” とすんでいるいきもの



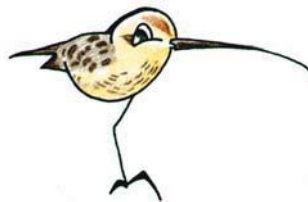
いきものがすみやすい “すみか”ってどんなところ？

- ✓ 多様な環境を含むまとまった規模の樹林があること



餌になるネズミや昆虫がたくさんすんでいるまとまった規模の樹林、草地、川や池などの水辺がセットになった場所がすみやすいな。

- ✓ 限られた環境が保存されていること



～干潟～

干潟は長旅の途中で休憩や栄養補給するのになくてはならない場所。



干潟にしかすむことができないから、なくなると大変。

- ✓ 水辺と林が連続していること



子どもの間は水の中だけど、成長すると林にも行きたい。水辺から林まで歩いていけることが大事。



～湿地～

湿地にしかすむことができないから、今ある場所を守ってもらわなくちゃ。



～ヨシ原、河川敷の草地～

広い草地は重要な繁殖場所。

- ✓ 市街地の中にも緑のネットワークができていること



一つ一つは小さな緑地でも、行動範囲内にたくさんあればすむことができるよ。



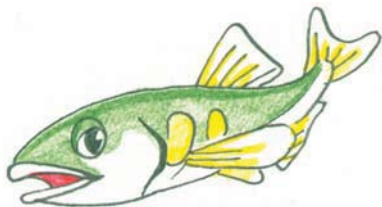
都市公園や緑地は長旅の途中で一休みできる貴重な場所。

- ✓ 古くからの地形が保存されていること



土づたいにしか移動できないから、昔からの緑地が残っている場所にしかないよ。

- ✓ 水辺のネットワークが確保されていること



川で産まれて一旦海へ下り、少し大きくなるとまた川をのぼるよ。大きな堰などの段差があるとうまくのぼれないな。



乾燥に弱いから、年中湿った林が必要。暗くて湿った社寺林なんかいい感じ。



庄内川



庄内川は市内では東谷山から名古屋市北西部に沿って流れる一級河川です。東谷山の付近では河畔林や自然な川原があり、河口付近には干潟、塩性湿地、ヨシ原が広がっています。

オイカフ、ニゴイ、海から遡上してくるアユなどがすんでいます。河口付近はシギ・チドリ類やカニ類など多くの生きものをみることができます。



堀川



名古屋城の築城にあわせて開削された人工的な川で、庄内川から分かれて名古屋市の中心部を南北に通っています。

ボラ、オイカフ、コイなどの魚類が生息し、サギ類やユリカモメ、カワセミなどの鳥類をみることができます。



南陽地区



西南部の干拓地に広がる南陽地区は、市内には珍しくなった、まとまった水田地帯です。

この地域では、サギ類やケリなどの鳥や、カエル類などの田んぼの生きものをみることができます。

アクセス 市バス「西茶屋荘、両茶

橋北、東茶屋四丁目」下車



藤前干潟



市の西南部、庄内川・新川・日光川の河口に広がる藤前干潟は、日本有数の渡り鳥の飛来地として、ラムサール条約に登録されています。

ここでは、多くのシギ・チドリ類、カモ類などの渡り鳥が、ゴカイやカニ、アナジャコなどをついばむ姿をみることができます。

アクセス 稲永地区：あおなみ線「野跡」下車
市バス「野跡駅」下車

藤前地区：三重交通バス「南陽町藤前」下車



東山公園・平和公園



東部丘陵に広がる東山の森は、動植物園や平和公園などを含めた400haの大きな緑です。

樹林やため池、湿地など、生きもののすみかとしては多様な環境を提供しています。

このエリアでは、シジュウカラなどの樹林の鳥や、サギやカモなどの水辺の鳥、チョウやトンボなどの昆虫をみることができます。

アクセス 地下鉄東山線「東山公園」下車 徒歩10分 または「星ヶ丘」下車 徒歩10分



名古屋城



台地の北西端に位置する名古屋城は、1612年に築城された、歴史に育まれた緑です。お堀の水辺や外堀土塁のムクノキ林などが、昔からの生きものたちのすみかになっています。

市街地にありながら、庄内緑地に次いで2番目に野鳥の種類が多く、ヒメボタルなどの昆虫もみることができます。

アクセス 地下鉄名城線「市役所」 市バス「名古屋城正門前」



久屋大通公園



都心に位置する久屋大通公園は、南北約2kmの緑です。

植えられたケヤキやクスノキなどの樹林が、生きものたちのすみかとなっています。

ここでは、キジバトやハクセキレイ、季節によってはツバメやメジロなどが訪れ、都心でありながら16種類もの野鳥がみられます。

アクセス 市バス「栄」、地下鉄「栄」、「久屋大通」、「矢場町」、名鉄瀬戸線「栄町」下車 すぐ



名古屋市のいきものの“すみか”

名古屋市のいきものの“すみか”を紹介します。裏面のマップに照らし合わせて見て下さいね。

絵の中で赤文字は外来種です

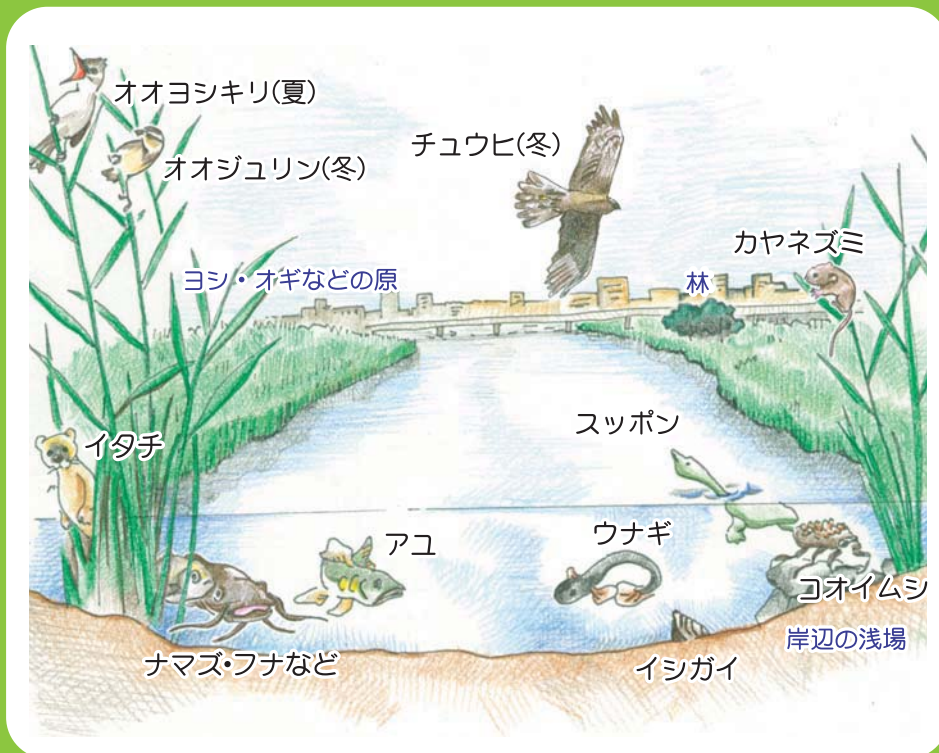
河原のある大きな川

- 自然の林や湿原のある川
- 草地のある川

庄内川の河口近くには、淡水と海水が混じった汽水域の環境があり、魚やカニの仲間など特徴的な生きものの“すみか”となっています。また、上流から流されてきた土砂が堆積してできたオギ・ヨシなどの原が広がっていて、夏にはツバメのねぐらになっているなど、多くの生きものの重要な“すみか”となっています。

庄内川や矢田川、天白川の川原には、公園のような緑地があります。ヨシ原と比べると単調な環境ですが、手入れされた草地が、バッタの仲間やヒバリなどの“すみか”となっています。

庄内川の松川橋より上流側は、ヨシやヤナギが生え、砂や石ころが積もった自然豊かな川原が広がり、イシガイのような川にすむ貝やアユなどがすんでいます。



自然の林や湿原のある川

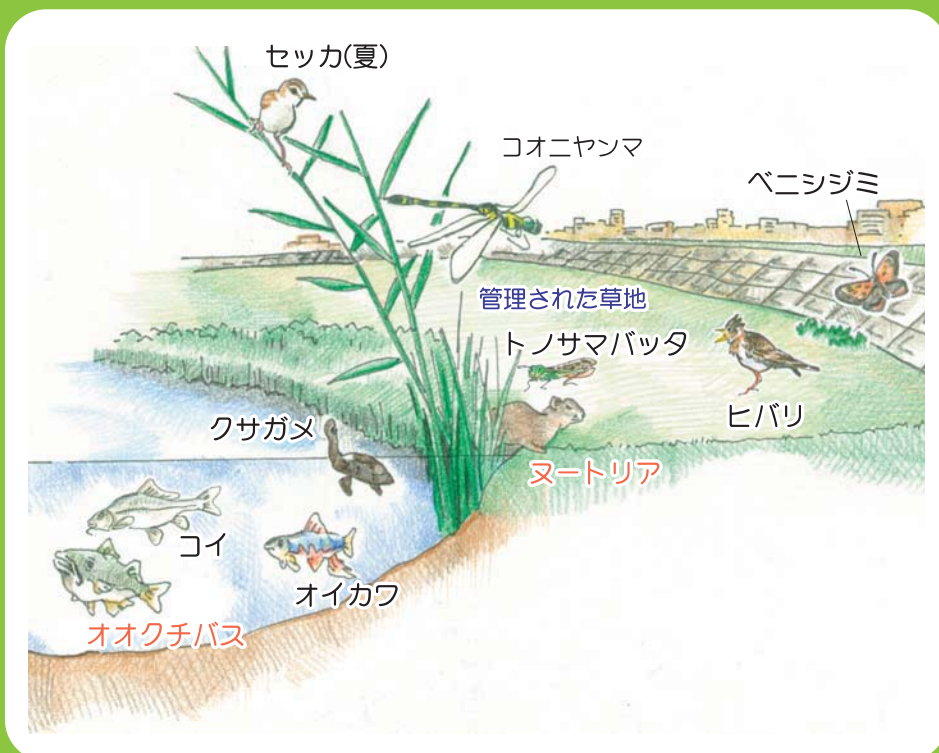
主な場所

- 自然の林や湿原のある川

庄内川松川橋から上流
庄内川明德橋から下流

- 草地のある川

庄内川松川橋から明德橋の間
矢田川
天白川
日光川など



草地のある川

街の中の人工的な川

コンクリートで護岸された単調な河川がほとんどですが、ボラ、オイカワ、ギンブナなどの魚類の“すみか”となっていて、これらを食べるカワウが増えているようです。また、カルガモ、ユリカモメや、場所によってはカワセミがみられることもあります。このような場所は、護岸や河床の構造や、水辺の緑を増やすなどの工夫をすれば、生きものがすみやすくなります。

主な場所

堀川・新堀川・香流川・植田川・山崎川
扇川・荒子川・戸田川・福田川・新川など



河口の干潟

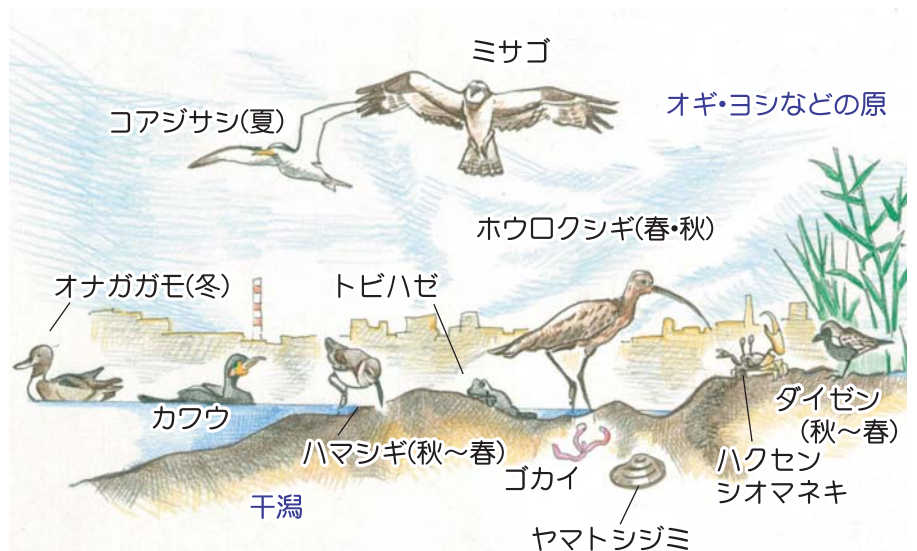
庄内川の河口周辺には、砂や泥がたまってできた干潟があります。干潟は潮の満ち引きによって、一日の間で水中に沈んだり、陸になったりします。砂や泥の中には、ゴカイ類や貝類などがすんでいて、水をきれいにする働きをしています。また、これらを餌とする多くの水鳥が集まり、トビハゼなどの魚や、ハクセンシオマネキなどのカニ類の“すみか”にもなっています。

藤前干潟は渡り途中のシギ・チドリやカモの仲間がたくさん訪れるので、国際的に重要な湿地と認められ、2002年にラムサール条約湿地に登録されました。

海には、スズキやクロダイなどの魚やイヨスダレガイなどの貝類がすんでいます。

主な場所

藤前干潟

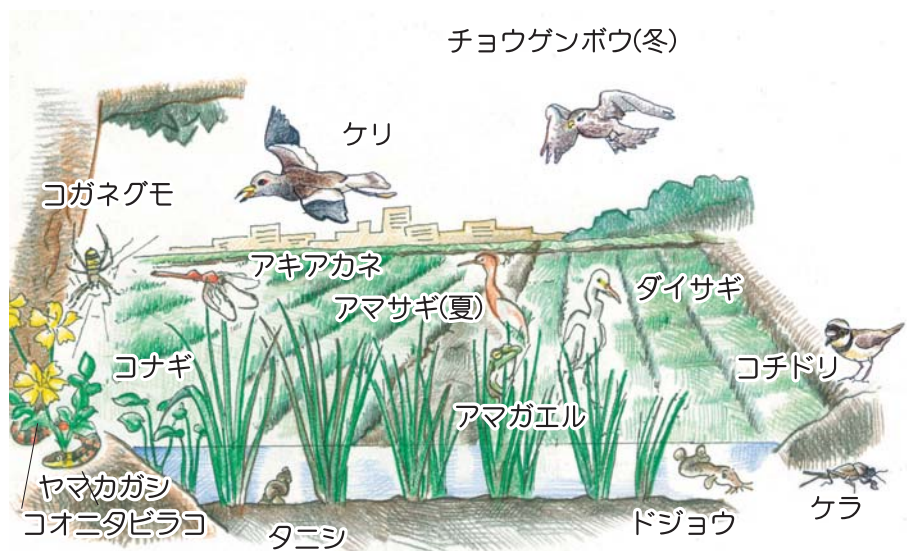


まとまった水田地帯

市域の南西部にある南陽地区には、まとまった水田地帯があります。近年、土地区画整理事業により、水田面積は減ってしまいましたが、最近新たな稲作方法の導入によって、一部の田んぼに冬の間水が張られるようになり（冬水田んぼ）、カモの仲間やシギ・チドリの仲間などの水鳥の餌場や休憩場所となっています。また、これらの水鳥をねらって、オオタカ、ハヤブサ、コミズクなどもやってきます。

主な場所

南陽地区



鎮守の杜など歴史に育まれた緑

城跡や神社は、ともに古くから残されてきた緑地です。クスノキやムクノキ、エノキなどの大木が見られ、人にとっても生きものにとっても、市街地内の貴重なオアシスとなっています。

暗くて湿った林は、オオゴキブリやカタツムリの仲間などが好む“すみか”となっています。エノキにタマムシがやってきたり、メボソムシクイのような渡り鳥の立ち寄り場所にもなっています。

名古屋城では、古くからすむコウベモグラやヒメボタルが今も代々すみ続けています。

主な場所

名古屋城・熱田神宮など



公園など人工的な緑

●林・草地・水辺がセットになっている緑

●おもに林または草地だけの緑

植えられた木や芝地、花壇などがあり、どちらかといえば新しくて単調な緑地です。都市に住む生きものが中心で、ドバトやアオマツムシのような外来種が多くみられますが、樹木の大きさや緑地の面積、河川とのつながりなどに応じて、生きものの種類も変わります。一般的に、面積が大きく、樹木が大きく、多様な環境がある緑地ほど、生きものの種類も多くなります。そのような場所では、春と秋にノゴマやクロツグミのような渡り鳥が休憩場所として利用することもあります。

主な場所

●林・草地・水辺がセットになっている緑
庄内緑地・名城公園・中村公園・瑞穂公園・戸田川緑地・稲永公園・荒子川公園・白鳥公園など

●おもに林または草地だけの緑

久屋大通公園・千種公園・吹上公園・土古公園など



家や建物が多い街

名古屋市のほとんどが「家や建物が多い街」ですが、その環境は高層ビル街、住宅地、小さな農地や草地や庭木が多い住宅地などさまざまです。ドバト、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラスなど人家近くを好む生きものの“すみか”となっていて、ツマグロヒヨウモンのように、パンジーなどの園芸植物に幼虫がくっついて人に運ばれ、分布を広げたチョウもみられます。

庭木が多い住宅地などには、シジュウカラやメジロのような林の鳥もすむことができ、巣をつくることもあるようです。



丘陵地の中小の緑

●林・草地・水辺がセットになっている緑

●おもに林だけの緑

昔からの丘陵地の自然が取り残された緑地です。周りを市街地に囲まれています。コナラやアカマツの雑木林など自然の林が残り、平地や台地の新しい緑地とは様子がちがいます。湿地やため池、その周りの湿った林は、マメナシ、シラタマホシクサなどの植物や、ヒメタイコウチという昆虫など、この環境に特徴的な生きものの貴重な“すみか”となっています。

このような場所では、もともと斜面が自然にくずれて、広い範囲のあちこちで湿地ができたり消えたりすることで、湿地にすむ生きものの“すみか”が保たれてきました。現在、大きな湿地は八竜や島田湿地などの限られた場所に残り、人の管理によって維持されています。

主な場所

●林・草地・水辺がセットになっている緑

八竜緑地・明徳公園・茶屋ヶ坂公園・天白公園・島田緑地・新海池公園・戸笠公園など

●おもに林だけの緑

竜泉寺・城山公園・興正寺・熊野公園・鷲津砦公園など



丘陵地の大きな緑

市域の東の丘陵地にあり、まとまった大きな緑、草地、ため池、湿地などいろいろな環境がセットになった、里山といわれる場所です。コナラやアカマツの雑木林、シイ林などいろいろな林があり、生きものの種類が豊富です。キツネやムササビ、オオクワガタなど豊かな自然を必要とする生きものの“すみか”となっている他、湿地には、シデコブシ、ナガバノイシモチソウなどこの地域に特徴的な植物がみられます。また、自然な岸のため池では、水深に応じて水草の種類も変わり、多くの生きものの“すみか”になっています。また、水辺と林が連続していることで、カエルの仲間やサンショウウオの仲間など、一生のうちに水辺と林を行き来する生きものもすむことができます。

主な場所

東山公園・平和公園・東谷山・森林公園・小幡緑地・猪高緑地・牧野ヶ池緑地・相生山緑地・大高緑地・荒池緑地・勅使ヶ池緑地・勅使ヶ池墓園など



生物多様性に配慮した取り組み

あなたもこんな活動に参加してみませんか

ため池市民調査

専門家や地域の人々および「ため池市民調査員」の方たちと生きもの調査や保護活動をしています。

2010年度には、約370人の市民調査員の方と一緒に、代表的な10のため池を調査しました。また、守山区の雨池では外来種の駆除や在来種の保護を行いました。

この春からは「生物多様性なごや保全協議会」（仮称）において、市内全域の生きもの調査と外来種の駆除や保全・再生活動を行っていきます。

みなさんの参加をお待ちしています。



<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/reservoir/>

そうすればこんな名古屋が実現します

「100年後の夢のなごや」

この絵は市民のみなさまからいただいたご意見をもとに描きました。「生きものいっぱい」「緑いっぱい」のなごやの絵を描くことができました。



図は「生物多様性2050なごや戦略」より引用

参考となる冊子やホームページ

- 生物多様性2050なごや戦略
- レッドデータブックなごや2010
- 名古屋市生物多様性保全のページ<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-5-14-0-0-0-0-0-0-0.html>

監修：夏原由博（名古屋大学教授）

発行：名古屋市環境局（平成23年3月）

所在地 〒460-8508 名古屋市中区三の丸3丁目1番1号

電話 052-972-2696 F A X 052-972-4134 E-mail: a2696@kankyokoku.city.nagoya.lg.jp

イラスト：永田哲生 編集協力：環境科学株式会社